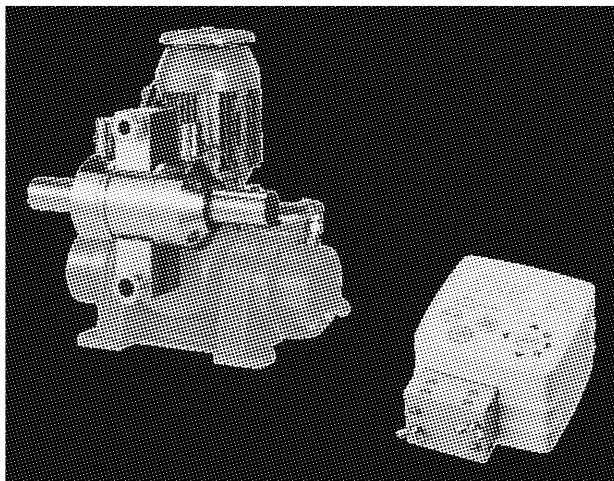


自動化を支える



タクミナのスムーズフローポンプ
(タクミナ提供)

タクミナ

タクミナは製造工程で原料を送液する容積式往復動方式のポンプ製造を手がける。同方式は脈を打つように吐出量が変わる「脈動」が起きやすいとされるが、タクミナは高度な流体制御技術によりこれを排した「スムーズフローポンプ」を開発。逆止弁で液体の逆流を防ぎ、材料を安定的に連続供給する。「ハンドリングが難しい液体の移送にも耐える」(山田信彦社長)と評価され、製造工程の自動化を支えている。

スムーズフローポンプは独自機構により脈動が少なく、高精度に一定の流量の液体を吐出できる。中身をかきまわさないため液体の変質が少なく、液漏れの心配もない。腐食しやすい液体や希少性の高い薬品などを扱う化学工場などから引き合いがあるという。

化学産業は分量をまともに作るバッチ生産を行う企業も多いが、人手が必要な課題も多い。そのため生産効率の向上や作業員の安全性確保の観点から、連続生産へ切り替える動きが進んでいる。同社は高性能な精密ポンプの供給でこうしたニーズに応える。

精密ポンプ、液体を連続供給

同社が注力するのが、2017年に開設した流体ソリューションセンター(兵庫県朝来市)での実証実験だ。従来のポンプでは解決できなかった困りごとについて、実際の液体を用いた送液試験で仮説検証し、解決へ導く。山田社長は「機密性の高い液体を(他社に)持ち込んでまで解決したいというお客さまの要望に応えないといけない」と気を引き締める。ポンプ1台からでも開発する顧客対応力が同社の強みだ。

今後は「自動化に貢献できるよう、ワンストップのソリューション提案に力を入れる」(同)方針。ポンプだけでなく、タンクや制御盤、計測機器を含むシステム全体を訴求し、顧客の自動化を一貫支援する。また、これまで蓄積した豊富な流体データを生かし、医薬品市場など難易度の高い分野の市場開拓を目指す。「ポンプでこんなこともできるんだ、というようなユニークさを追求したい」(同)と意欲を示す。